



手をたずさえて

“だから、生きる！”あの感動を心に刻みこもう!! 増田太郎さん2年連続の教育講演ライブ実施 11/22(金)

本日の教育ライブに参加させていただきました父兄です。素晴らしい時間を共有させていただきましたこと、お礼申し上げます。学校便りで、なぜ校長先生はあれほどまでに増田太郎さんびいきなんだろう？と不思議に思っていました。今日のライブで謎解きされました。(笑) 増田太郎さんの演奏、トーク、人柄、心、素晴らしかったです。これを子供たちに感じてもらいたかったのだ、と思いました。貴重な体験を子供たちへありがとうございました。…父兄として一つ感じた事、あのようなエンターテインメントな舞台を前にして、富中生は観客としてきちんと聴けて、きちんと盛り上がるメリハリがあること、ステキだと思って見てました。演者の増田さんが気持ち良くノリノリで演奏できたのは、富中生の心からの盛り上がりといふ雰囲気が作れる子供たちだからだと思います。すべてが素晴らしかったです。ありがとうございました。



教育講演ライブ後に、ある保護者の方からいただいた、とてもありがたいメールです。そして、太郎さんのFacebookに、次のような太郎さんのメッセージが掲載されました。ともに富中生への温かい称讃が述べられています。



今回も実に濃厚で充実した時間をありがとうございました！熊坂先生の《想い》もひしひしと感じながら迎える本番のステージ。毎回、本当に特別です！それにしても今回は、ロックフェスのような盛り上がりでしたね☆ かとすると、ものすごい集中力で言葉や音楽に聴き入ってくれるみんなと、いろいろなキャッチボールをしながら《響き合い》の時間を過ごせ、格別でした！…《だから、生きる！》という人生のテーマとともに、しっかりと心に刻みながら、これからのステージに挑んでいきます！《チーム富中》のみなさんに、そして生きるプロジェクトのみんな（群読メンバー、校歌指揮・伴奏者、生徒会役員）にくれぐれもよろしく！

《だから、生きる！》…演奏が終わった今も、その想いがじわりと温かく、胸の中に響いています。きっとこれからも、折に触れて支え、鼓舞してくれる、人生の大切なキーワードだと感じています。(増田太郎)

同窓会の本田雅宏会長のご厚意で実現した2年連続の講演ライブ。1年生には新鮮な驚きと感動、2・3年生には昨年とは違った一歩成長した視点や感性からの捉え方を強く感じました。《だから、生きる！》…このテーマの意味を、太郎さんの演奏やトーク、《生きる》群読のコラボなどから深く考えた生徒がたくさんいたようです。数名の生徒の『太郎さんへのメッセージ』を紹介します。

1・2年生のメッセージ

■「目が見えない」という絶壁を越え、今を生きるミュージシャンがいる。そう、増田太郎さんだ。我々1年生は今、はじめて太郎さんと出会った。驚くほどにポジティブで、言葉の一つ一つに何か温もりがあった。彼は目が見えていない。彼の黒いサングラスを見ると胸が痛くなる。しかし、太郎さんは明るく元気で、僕達富中生を励ましてくれる。泣きたくなくなるほど優しい人だ。太郎さんが奏でるヴァイオリンも、ピアノも、沢山の人々を笑顔にしてくれたと思う。太郎さんが話す中で、「映画の30曲を全て1ヶ月でつくった」というものがあった。僕は驚いた。太郎さんは思いを込めて30曲もつくってしまった。「素晴らしい」以外の言葉が見当たらない。目が見えないというおもりを花束のように軽く、そして人を幸せにできるものに変えた人がいる。その名は“増田太郎”。…我々1年生は感動を胸にこのメッセージを書いているだろう。彼がかけていた黒いサングラスは、「人は可能性に満ちている」と伝えたかったのかもしれない。(1年男子)



■ 講演ライブを通して、改めて考えさせられたことがたくさんありました。人はなぜ生きるのか、私たちが生きる意味とは何か。単純な問いだけれど、考えれば考えるほど答えがなく、どこまでも続いていく感じがしました。私は今吹奏楽部に所属していますが、楽器演奏の時には曲の抑揚をつけたりイメージしたりなど、“感情”を入れることに苦戦します。その曲に歌詞があると、その意味を考え想像し、うれしい、悲しい、楽しい、苦しい、怒り、不安、おだやか、のんびりなど、曲に合う言葉の種類を選び演奏する、を繰り返します。そうしていくうちに、その曲に込められたメッセージが見つかって、その時に「音楽っていいな」と実感します。今回、太郎さんの演奏を聴いて、様々なことを考えました。一曲一曲、一音一音に意味を感じました。音のメリハリがあるところ、楽しく弾むように弾くところ、そして何より目が不自由なのに、自分の音楽を伝える生き生きとした姿、かっこいいなと思いました。まさしくそこは、“太郎ワールド”でした。私もそんな奏者になりたい！と心から思いました。“生きる”とは何か。人は何のために生きるのか。楽しいから。自分のため。大切な人がいるから。答えは人によって違うと思います。私は、“輝く”ために生きるのだと思いました。太郎さんのように、どんな状況でも物事のすばらしさを広めたり、夢へ全力で進んだりすることも“生きる”ではないかと、太郎さんを見て思いました。私たちにたくさんのことを気付かせていただき、ありがとうございました。(1年女子)



■ 今回のライブは僕の想像を遙かに超えていました。特に印象に残った点は太郎さんが音楽だけでなく、身の周りの音やリズムを自分のものになっている点です。仮に僕がヴァイオリニストだったら、「ヴァイオリン=音楽を奏でるもの」という考えを勝手につくってしまい、その外の世界は知らないままになると思います。ですが、太郎さんはそんな概念を持たずに、どんなものでも音にしてしまっていて、本当にすごいと感心しました。僕も太郎さんのように「これはこういうものなんだ」という概念を持たずに、自分らしく生きていきたいといます。これから自分の前に立ちだかる壁を前にした時には、太郎さんに教えてもらった「とにかくやってみる」という強い心を思い出して、その壁を乗り越えていきます。(1年男子)



■ 私は幼稚園の年少から今までピアノを習っています。しかし、中学生になって忙しくなり、ピアノを練習する時間が減り、最近まで「もうピアノはやめようかな」と思い始めていました。でも太郎さんの力強い自信に満ち溢れた演奏を聴いたら、盲目という状況の中、音楽が太郎さんの人生に彩りを与えたのかな、と考え始めました。もしそうだとしたら、私は何度かピアノをやめたいと思ったことがあったけど、私の人生に彩りを与えてくれて、私自身を明るくしてくれたのは、やっぱり音楽だったのかな、と思いました。そして、太郎さんの演奏のおかげで、「やっぱりピアノは続けよう！」と改めて強く思えるようになりました。10年近く続けてきたピアノを“続ける”という意志へと導いてくださり、本当にありがとうございました。(1年女子)

■ 私はこの講演ライブで「増田太郎」という一つの物語を読んでいるように感じました。太郎さんが奏でるヴァイオリンやピアノの一つ一つの音、一つ一つの歌詞に強い想いを感じました。その中でも私が心に残ったのは、太郎さんがおっしゃった「人は一人で決して生きてはいけない」という言葉でした。私は去年は「人は一人では生きていけない」という言葉の方が強く心を打たれました。誰だって人の支えがなければ生きていけないということだろうと思いました。その時は、孤独で生きていくことの危険さ、駄目さを知ることができずにいました。しかし、今回は去年とは違って、人は孤独になってはいけない、それで生きてはいけないと強く思いました。(2年女子)

■ 僕は太郎さんの「どんな時でも前を向く姿」がいいなと思いました。僕は学校や部活で前向きにとらえることができない時があります。でも、太郎さんの「今を懸命に生きる姿」に励まされ、つらい時ほど前向きに生きようと思いました。そして、好きなことに努力できることがすごいなと思いました。僕は最近なかなか何事にも力を入れることができていません。太郎さんのように、勉強や部活に「努力できる人」になりたいと思いました。今回と前回の2回で、太郎さんには人を笑顔にできる才能があると思いました。「幸せになるには、まず身の周りの人にやさしくする」というように、僕はクラスの人や部活の人を大事にしていきたいです。今回は、太郎さんから学んだ、生きるという意味をよく考え、これからも頭の中に入れて生活していきたいです。そして、「人を笑顔にできる人」、「どんな時も前向きに生きていける人」を目指して頑張りたいです。(2年男子)

